

SON-DAY, FEBRUARY 5th, 2017 EVENING WORSHIP SERVICE

単立キリスト教会 マラナサ・グレイス・フェローシップ Maranatha Grace Fellowship [MGF] Since Jan. 18, 2004

牧仕:菊地 一徳(かずなり) 教会所在地:〒381-0084 長野市若槻東条 541-2 フカザビル2F 長野クリスチャンセンター内

www.mgf-jc.com mgfchurch@ybb.ne.jp / 電話、郵便物は菊地宅まで 〒381-2247 長野市青木島 1-32-17 番:026-285-4713

「この国の日本人がみんなクリスチャンになることよりも、本物のクリスチャンがいることが大切だ。」(榎本保郎)

礼拝黙想 Meditating on Worship

A「このように、あなたはなまぬるく、熱くも冷たくもないので、わたしの口からあなたを吐き出そう。」(ヨハネの黙示録3:16)

私たちはヨハネの福音書3:16やヨハネの手紙第一3:16は好んで引用するが、ヨハネの黙示録3:16はどうだろう？

以下はフランシス・チャン著『クレイジーラブ』からの引用である。

あなたはイエス・キリストを心の底から愛していると言えるでしょうか。それとも、中途半端でなまぬるく、すべてをささげないと言ったほうが当てはまるでしょうか。〈中略〉中途半端で熱意もなく、すべてをささげおらず、なまぬるい人とはどういう人かを説明したいと思います。それらを読み、人生を正直に見つめ直してみてください。いつかなりたい自分ではなく、自分は今どういう人で、どのような生き方をしているのか。

信仰のなまぬるい人は、教会にまあまあ定期的に出席します。周りの人々からそれを期待されており、“良いクリスチャン”はそうあるべきだと信じているから、そうするのです(イザヤ29:13参照)。

信仰のなまぬるい人は、チャリティーや教会に献金をささげます。自分の生活水準に影響をきたさない限りは。生活に支障のないわずかお金なら、ささげることも簡単で、心配もいらないのでそうするのです。どうせ神は、喜んでささげる人を愛してくれるのでしょうか？(1歴代誌21:24;ルカ21:1-4参照)

信仰のなまぬるい人は、対立が起こったときは、正しいことよりも評判のいい方を

選びます。教会の中でも、教会の外でも、両方にうまくとけ込もうとします。神が自分の心や生活をどう思うかよりも、周りの人が自分の行動(教会出席や献金額)をどう思うかが気になります(ルカ6:26;黙示録3:1;マタイ23:5-7参照)。

信仰のなまぬるい人は、本当に罪から救われたいと思っているわけではなく、罪による罰から免れたいだけなのです。罪を心から憎んでいるわけではなく、神の裁きが怖いので、申し訳なく思っているだけです。信仰のなまぬるい人は、罪に生きていた過去よりも、イエスの与えてくださる新しい人生のほうが優れているとは、本当には信じていないのです(ヨハネ10:10;ロ-マ6:1-2参照)。

信仰のなまぬるい人は、キリストのために極端なことをした人の証しを聞いて感動しますが、自分は実行に移しません。そのような極端な行動はごく一部の“大胆な”クリスチャンがすることであり、普通のクリスチャンがすることではないと思っています。信仰のなまぬるい人は、イエスがすべてのクリスチャンに望んでいることを“極端”と見なすのです(ヤコブ1:22;ヤコブ4:17;マタイ21:28-31参照)。

信仰のなまぬるい人は、自分の信仰について近所の人や同僚、友人にめったに話しません。拒絶されたり、宗教など個人的なことを話し、周りの人に不快感を与えたりしたくないのです(マタイ10:32-33参照)。

信仰のなまぬるい人は、自分の道徳観や“善行”をこの世と比べます。敬虔なだれそれより熱心にイエスを信じていなくても、近所に住む感じの悪い人よりはマシだと、そのままの自分に満足しています(ルカ18:

11-12参照)。

信仰のなまぬるい人は、イエスを愛していると言いますし、たしかに人生の一部はささげます。しかし一部だけです。時間、お金、思いの一部はささげますが、自分の人生をコントロールされたくはないのです(ルカ9:57-62参照)。

信仰のなまぬるい人は、神を愛していますが、心を尽くし、思いを尽くし、知力を尽くして、熱心に愛することはしません。もっと神を愛したいけれど並の人には不可能だ、と言います。そのような愛し方は、牧師、宣教師、敬虔なクリスチャンにしかできないと言うのです(マタイ22:37-38参照)。

信仰のなまぬるい人は、他人を愛しますが、自分を愛するほどには愛しません。愛する相手も、家族や友人、心の通じ合う人など、自分を愛してくれる人たちだけです。自分に愛を示してくれない人への愛はほとんどなく、自分を侮辱する人や、わが子より運動神経のいい子どもを持つ人、会話するのが厄介な人、気が合わない人に対する愛はおさらありません。そのような愛は、条件付きの愛であり、えこひいきの愛、見返りを求める愛です(マタイ5:43-47;ルカ14:12-14参照)。

信仰のなまぬるい人は、神や人に仕えますが、どれだけの時間、お金、エネルギーを費やすかということには制限がありません(ルカ18:21-25参照)。

信仰のなまぬるい人は、御国での永遠のいのちよりもこの世の人生のことを考えます。“今日のやるべきこと”や週間スケジュール、来月の旅行計画、といったものを。天での生活について熱心に考えることは

「教会 [マラナサ・グレイス・フェローシップ (略称: MGF)] はキリストのからだであり、いっさいのものをいっさいのものによって満たす方の満ちておられるところです」(エペソ1:23)。「そしてあなたがた [MGF] は、キリストにあって、満ち満ちているのです。キリストはすべての支配と権威のかしらです」(コロサイ2:10)。

ごく稀です。C・S・ルイスはこう書いています。「歴史を読めば分かることだが、現世のために最も多く働いたクリスチャンたちは、来世について最も多く思いをいたした人たちであった。…クリスチャンたちの現世における働きがかくも非力になってきたのは、彼らが来世のことをあまり考えなくなって以来のことである」(ピリピ3:18-20; コロサイ3:2参照)。

信仰のなまぬるい人は、豊かさや快適さを感じますが、貧しい人を可能な限り援助しようとはほとんど考えません。「イエスが金銭ではなく、金銭を愛することが悪の原因だと言っただけだ」とすぐ言い出します。裕福な人への伝道に“召されている”と感じている信仰のなまぬるい人は大勢いますが、貧しい人への伝道に“召されている”と感じている人はごくわずかです(マタイ25:34, 40; イザヤ58:6-7参照)。

信仰のなまぬるい人は、大きすぎる罪悪感から逃れるためには何でもします。最低限のことだけで、あまり多くを求められずに、“十分良い”とされたいのです。「どうしたら、聖霊の宿る宮として、自分を聖く保つことができるだろうか?」ではなく、「どこまでなら、罪と見なされないだろうか?」と問います。「どれくらいささげられるだろうか?」ではなく、「どれくらいささげればいいのだろうか?」と問います。「会社に行かずに、もっと聖書を読んでいたら!」ではなく、「どのくらい祈ったり、聖書を読んだりすべきなのだろうか?」と問います(1歴代誌29:14; マタイ13:44-46参照)。

信仰のなまぬるい人は、いつも安定を気につけて、コントロールすることに執着しています。神のために犠牲を払ったり、リスクを負うことは避け、安定した生活を保とうとするのです(1テモテ6:17-18; マタイ10:28参照)。

信仰のなまぬるい人は、教会に通い、十二歳で信仰告白をし、洗礼を受け、クリスチャンホームに育ち、共和党に投票し、アメリカに住んでいることで安心していています。旧約聖書の預言者たちが民に忠告し、ここがイスラエルだからといって無事なわけではないと告げたように、クリスチャンだからといって、“アメリカはキリスト教国だから”と主張したからといって、無事だというわけではないのです(マタイ7:21; アモス6:1参照)。

信仰のなまぬるい人は、信仰によって歩みません。信仰に頼らなくても良いような生活をしているのです。予期しないことが起きても、神に頼る必要はありません。貯金があります。神の助けは必要ありません。退職後の年金が積み立ててあります。神が用意している人生がどのようなものか、真剣に求めることはありません。すでに自分の人生計画があります。日々の生活で神に頼ることはありません。冷蔵庫の中はいっぱいですし、大抵の場合は健康です。実際のところ、突然、神を信じるのをやめたとしても、あまり生活は変わらないでしょう(ルカ12:16-21; ヘブル11章参照)。

信仰のなまぬるい人は、そこまで酒を飲み、罵ったりはしないでしょう。しかし、それ以外は、神を信じていない人たちとほとんど変わらない生活をしています。一部の悪を排除する生活を“聖さ”と勘違いしていますが、これほどの間違いはありません(マタイ23:25-28参照)。

「信仰に立っているかどうか、自分自身をためし、また吟味しなさい。」(2コリント13:5)

…私を最も脅えさせるのは、なまぬるい信仰をもち何も考えていない人々です。この本を読んでいる人たちを調査したなら、「確かになまぬるいときはあるが、これ以上神にささげるつもりもない」という人が、

かなりいるのではないかと思っています。私たちの多くは、神との関係は現状で十分だと信じており、神は生活のあらゆるものの一部でしかないのです。私たちの多くは、お金をどれほど稼ぎ、どこの学校に入学し、憧れの身体を手に入れ、だれと結婚し、どのような人になるのか、といったことを考えるほうに夢中です。しかし、神との親しさよりも重要なことは何一つあってはいけません。神との関係は永遠で、何にも代え難いものです。神は、私たちの人生の付属品ではないのです。

…私たちが神とこの世のものを比べることを、神は忌み嫌います。実際に神自身よりもそれらが大事だと決めたなら、神を嫌な気持ちにさせることでしょ。私たちは、イエスに助けを求めらる必要はないと信じており、でも、いつの間にかゆっくりと下流へ流れていることには気が付きません。そうして次第に盲目になり、裸となり、貧しくあわれな者となっているのです。「なまぬるい信仰の者は、口から吐き出す!」と、イエスが言うのも無理のないことです。

これからはっきりお尋ねすることは、いのかにかかわることであり、これ以上に重要で永遠に関するものはないので、どうか聞いてください。あなたは神に自分のすべてをささげると喜んで言うことができますか? 人生において、何よりもだれよりも、神に心から仕えることのほうが重要であると信じていますか? 人生で何を成し遂げようと、神と神のお造りになった人々を愛さなければ無意味であると知っていますか? Ω

<お知らせ Announcement>

★聖書通読を始めましょう。最低でも1年間で聖書66巻を1回は通読しましょう。

「教会 [マラナサ・グレイス・フェローシップ (略称: MGF)] はキリストのからだであり、いっさいのものによって満たす方の満ちておられるところです」(エペソ1:23)。「そしてあなたがた [MGF] は、キリストにあって、満ち満ちているのです。キリストはすべての支配と権威のかしらです」(コロサイ2:10)。

★MGF メンバー必読書は新会堂完成予定日（あと54日）までに読み切ることを目指しましょう。

「教会 [マラナサ・グレイス・フェローシップ (略称: MGF)] はキリストのからだであり、いっさいのものをいっさいのものによって満たす方の満ちておられるところです」(エペソ1:23)。「そしてあなたがた [MGF] は、キリストにあって、満ち満ちているのです。キリストはすべての支配と権威のかしらです」(コロサイ2:10)。